

カタール、UAE女性対象 「日本の石油会社の社会的責任(CSR)」コースを開催

カタールとUAEの女性社員を対象に、日本におけるカスタマイズ研修を行いました。JCCPの研修で女性だけを対象にした研修は初めての試みでした。

1. コースの経緯と概要

カタールとUAEから女性だけのカスタマイズ研修の実施要請がありました。研修生の構成は、カタールから3名、UAEから7名の構成で、年齢は20歳代から40歳代まで、かつ職務も総務職からエンジニアリング職まで幅の広いものでした。そのため、事務系にも技術系にも必要とされる研修内容として「企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility: CSR)」を実施することになりました。両国の参加各社が社会的責任を果たしていくために、日本の石油業界等のCSR取り組みを事例として学べるコースを検討しました。日本の石油主要3社のCSRに対する取組の状況やそれぞれの特徴を比較しました。社会的責任のもっとも重要な環境管理や地域社会との関係についても説明を受けました。またエンジニアリング会社では、設備設計、建設、運転に際してのCSRに対する考え方を理解しプロジェクト推進に活かせるものとする工夫も行ないました。

研修期間は平成24年10月9日(火)から10月19日(金)の11日間で行いました。

2. 研修内容

(1) 日本の石油産業とCSR活動概要

日本の石油輸入の実情、製品の需要の変化と石油会社の実態等日本の石油事情を理解する講義とし、かつ本コース『企業の社会的責任』の目的を理解するため、日本の石油会社が継続して社会に貢献すべく、いかにしてその役割を果たしているかを理解していただく内容としました。

(2) 世界のエネルギー事情

(エネルギー&イノベーション研究所 前田講師)

石油会社でCSRに取り組むにあたって、世界のエネルギー事情に関する幅広い情報収集・分析と、グローバルな視点からエネルギー業界全体の知識・情報を学ぶことが重要と考えた内容の講義としました。石油を取り巻く様々なエネルギーの実情を解説し、石油の位置づけを明確に理解させるものでした。また石油の将来性と他のエネルギーの将来性との詳細な比較と見通しを述べ、併せて、福島の実情を詳しく説明するなど、研修生自身が考察を加える講義内容となっていました。講義内容が多岐にわたるものでしたが、研修生はよく内容を吸収できたようです。また、講師の英語力も高く、研修生の評価が大変高いものとなりました。

(3) JX 日鉱日石エネルギー(株)

(JX) 本社、創エネハウス

日本を代表する石油会社のCSR活動を紹介すべく、JXが開発している新エネルギー技術を活用した新しい居住環境の提案を組み込んだモデルルーム“創エネハウス”を視察しました。女性の視点を考えたプログラムであり、全員が大変興味深く説明に聞き入り質問も多く効果的な研修となりました。引き続きJX本社にて、JXが取り組んでいる石油業界のCSRのありかたを研修するとともに、石油開発からJXがUAEやカタールで取り組んでいるプロジェクトの説明を行い現地に赴任していた旧知のメンバーとの旧交を温めていました。また、JX本社に勤務する女性スタッフとの交流会も企画され、日本と各国での女性の仕事について共通点、違いなどについて意見交換を行い、大変な盛り上がりを見せていました。



JX 女性スタッフとの討議風景

(4) (株)コスモ総合研究所 本社

(コスモ石油(株) 本社)

コスモ石油の事情で場所をコスモ総研の会議室で実施しました。コスモ石油(株)の会社概要説明に続き、コスモ石油CSR活動並びに継続可能な企業活動について詳細の説明がなされました。特に社会とのつながりを大切にする様々な取り組み、ボランティア活動等の説明がありました。本講義は翌日の研修先であるコスモ石油(株)坂出製油所の導入として効果的でした。

(5) コスモ石油(株) 坂出製油所

冒頭に、坂出製油所の紹介ビデオを視聴し、坂出製油所の歴史と概要について詳細説明を受けました。特に本製油所

が来年度に閉鎖されるとの説明になぜなのかとの質問が多く出されました。坂出製油所が取り組んでいる地域貢献と社会的責任の取り組み状況について説明をうけました。特に、地域住民との協調と環境の維持に努力していることを強調しました。製油所の視察では、コンパクトにまとまった装置群に関心を持っていました。また、インシュレータの外表面腐食について、どのような検査をしているのかなどの具体的な質問がありました。

(6) トヨタ自動車(株) 本社、高岡工場

本社のトヨタ会館の展示ルームにてトヨタ自動車がトップ企業としてどのようにして CSR に取り組んでいるか、また、トヨタ自動車が取り組んでいるさまざまな社会貢献活動を学ぶことが出来ました。主力工場の高岡工場では、組立工程における色々な改善活動を目の当たりにすることが出来ました。また、人にやさしい組み立てラインの工夫が社員の提案からなされていることを知り、感銘を受けたようです。工場視察の後、不明な点、特に顧客からのクレーム処理、その対応についての組織とポリシーについて詳細に説明をしていただきました。

(7) 日揮(株) 横浜本社

エンジニアリング企業の CSR 活動について、分かり易く説明を行いました。事例として、地域の障害者支援活動の協賛事業として、お昼時間にパンやクッキー等のお店の出店を企画し、従業員への福利厚生と合わせた活動をしているとの説明もあり、実際に出店場所を訪問し活動を直に体験することができました。引き続き、日揮の環境対応について、協賛している NPO アースウォッチ・ジャパンの活動についての説明をされました。また、技術での取り組みについて主に、二酸化炭素捕捉、フレアガス削減技術、再生可能エネルギーと低炭素インフラのそれぞれの技術について詳細な解説を受けました。エンジニアの研修生は数多くの質疑応答を行い、専門的な内容に大変満足をしたようでした。



日揮での講義風景

(8) 出光興産(株) 千葉製油所、工場

出光の会社、千葉製油所の紹介に続き、製油所の現場では、製油一課の計器室横の打合せ室に掲げている TPM 活動板に大変興味を持ち、各自がそれぞれ質問をしていま

した。また、課員全員の技能レベルが一目でわかる技量習得揭示表に高い関心を示していました。さらに、工具置き場の 5S に痛く感激を示していたことが印象的でした。また、出光の企業理念と CSR 活動についての詳細説明では、人間尊重、製油所・工場との環境との調和について、創業以来貫いてきた活動そのものが CSR 活動であるとの紹介がなされました。大変数多くの質疑がされ、関心の高さを示していました。



出光興産 千葉製油所 現場にて

3. コースを振り返って

コース全体についての研修生からの評価は、高いものでした。各人の業務との関連について、全員が今後の業務に役に立つと評価していただきました。より一層の理解を深めていただくため通訳を起用し対応をしていた実地研修先がありました。今後は実地研修先との事前打ち合わせを緊密に行い、通訳の起用も勤めていきたいと考えます。

今回のコースは、女性だけのコースであることから、サブコーディネーターは女性の担当とし対応を行ないました。これにより、男性では気づくことのできないきめの細かい対応が出来たことから、全体の評価が高くなったものと思われます。

今回のテーマについては、依頼先から『企業の社会的責任 (CSR)』を掲げたコースを希望されたことから、取り組む領域も広く、事務系から技術系まで幅広い分野の方が参加出来るものとなりました。このことから女性を対象とするコースとして本テーマは最も進めやすいものと考えます。実際、今回のメンバー構成がエンジニア、人事管理、総務、環境安全、CSR 担当と幅広くともコース内容に問題を唱えることもなく対応ができたことから、今後とも女性対象コースとして CSR を候補テーマとして各国にアピール出来るものと考えられます。

(研修部 刀欄 文廣)